

法華経ゆかりの地参拝の旅 5日間

釈尊が靈鷲山にて説かれた法華経は時を経て中国に伝わり、鳩摩羅什によって漢訳されたものを智顗(天台大師)が所依の経典とされた由来があります。こちらのコースでは西安(鳩摩羅什の訳経道場だった草堂寺など)と天台山(中国天台宗の総本山・国清寺など)にて、法華経ゆかりの地を訪問、巡拝します。

1	各地空港 ⇒ 上海 ⇒ 西安 空路、上海にて乗り継ぎ、西安へ 【西安泊】
2	西安 午前、草堂寺参拝 午後、西安郊外見学(兵馬俑、華清池) 【西安泊】
3	西安 ⇒ 杭州 ⇒ 天台山 午前、西安市内の寺院を参拝(興教寺、大雁塔) 空路、杭州へ 杭州よりバスにて天台山へ 【天台山泊】
4	天台山 → 上海 朝、国清寺の朝勤参列 天台山参拝(智者塔院、高明寺、石梁飛瀑) 上海へ 【上海泊】
5	上海 ⇒ 各地空港 空路、帰国の途へ 入国手続き、税関の後、解散

天台山

天台山は浙江省の東部、天台県の北から北東に広がる霊山で、標高1,138mの華頂峰をはじめ鬱蒼と繁る木々に覆われた峰々が重畳として連なり、しばしば霧に包まれて霊山の気に満ちています。

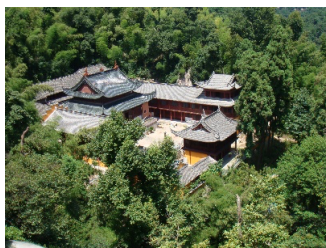
この霊山の中にある国清寺は575年に智顗が入山して道場を開き、智顗に帰依した隨の晋王楊広により598年に創建されました。智顗没後、弟子の灌頂らの努力や楊帝の保護を得て、中国天台宗の根本道場となり、はじめは天台山と名付けられましたが、605年に国清寺と改称されました。845年、会昌の廃仏に遭い焼失しましたが、851年に重建され、1,005年には景德国清寺と再び改称されました。

日本からも804年に最澄が入山したのをはじめ、入唐僧が訪れ、日本天台宗の祖庭とも称されています。856年には円珍が訪れ、国清寺内に日本大徳院を建てました。宋代には国清寺、大慈寺、天封寺、石橋寺、護国寺、万年報恩寺など72寺があったと伝えられています。この時代、日本から成尋、栄西、重源らの入宋僧が訪れました。

現在は7万㎡余の境内に国清寺、真覺寺、高明寺、方広寺など大小14の殿宇が現存し、座禅堂にあたる妙法堂には最澄、円珍、雪舟らの座禅修行した席が遺されています。



国清寺



古方講寺



高明講寺



華頂講寺



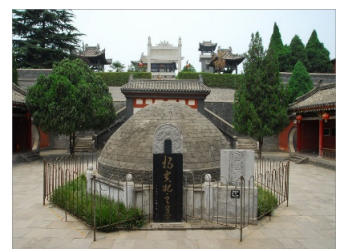
兵馬俑坑



秦始皇陵



華清池



楊貴妃墓

西安

シルクロードの東の起点として繁栄した古都で、現在は陝西省の省都です。紀元前12世紀頃に西周が鎬京として都を設置以来約2,000年の間に秦や前漢、随、唐をはじめ、11の王朝の都となりました。紀元前202年に興った前漢の時代から西安は「長安」の名が使われるようになり、栄華を極めた唐代には西方の外国人で賑わう大都市へ発展しました。「西方を安ずる」という意味の西安の名は明代に付けられました。

玄奘三蔵の訳経道場だった大雁塔や小雁塔、玄奘三蔵の墓塔がある興教寺、空海や円仁が留学した青龍寺、浄土教の高祖・善導大師の墓塔がある香積寺、鳩摩羅什の訳経道場だった草堂寺など、仏教に深く関連した史跡が数多く遺っています。

また、日本と西安の交流の歴史は古く、遣隋使や遣唐使が送られ、日本文化に大きな影響を与えました。



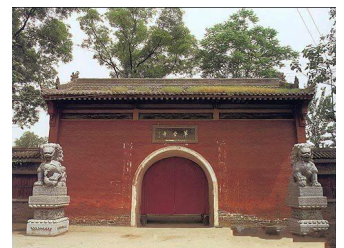
大雁塔



香積寺



興教寺



草堂寺



小雁塔



青龍寺

西安には仏教史跡のみならず、兵馬俑坑や秦始皇陵、華清池、楊貴妃墓など世界的に有名な観光地が多くあります。